

### 巻税務署長賞 受賞作品

## “税金と530円の繋がり”

新潟県立巻総合高等学校 3年 田中 恵哩七 さん



私たちの生活は便利で安心ですが、その便利さや安心は、普段あまり意識することのない「税金」に支えられている事に気づく人はあまり多くはないかもしれません。街の道路や学校、病院や警察など、日常で当たり前のように利用しているものは、税金のおかげで維持されています。

最近、消費税の引き上げがニュースで話題になっていました。買い物で負担が増えることになりませんが、そのお金は医療や教育、災害復興など社会全体の為に使われています。高校生の私たちにとって、直接「税金を払う」機会は少ないかもしれませんが、しかし、病院での医療費が高校生までは一部負担され、530円で済むことも、税金があるからこそです。もし税金がなければ、もっと高額になってしまい、気軽に病院に行く事も難しくなっていると思います。税金は私たちの健康や安心を守る大切な役割を果たしているのです。

私の生活を振り返ると、税金のおかげで便利に過ごしていることがよくわかります。学校の教室や図書館、パソコンや運動場など、学習や部活動に必要な設備は税金で整えられています。通学で使うバスや駅の整備、道路の維持や信号機も、私たちが安全に通学するため

に欠かせません。休みの日に友達と遊ぶ公園や街の図書館、スポーツ施設も税金のおかげで利用できます。日常の「当たり前」の多くが、実は税金によって支えられているのです。

税金は、単に支払う義務ではなく、社会全体を支える仕組みでもあります。道路や学校、医療だけでなく、災害時の救援活動や福祉、子育て支援など、生活のあらゆる場面に関わっています。将来、社会に出たときも、税金の大切さを理解し、正しく収めることは、よりよい社会を作る一歩になると感じます。税金の使い道に関心を持つことで、自分の生活や社会の仕組みに目を向けるきっかけにもなります。

私は高校生であっても税金について考えることは大切だと思います。病院の医療費や学校の設備、交通機関など、私たちの身近な生活は税金によって支えられています。税金は少し遠い存在に感じるかもしれませんが、私たちの生活や将来を守る大切なものです。これからも、税金の意味を理解し、自分の生活と社会のつながりを意識しながら、将来に向けて考える力を大切にしていきたいです。

### 巻税務署長賞 受賞作品

## “災害と税”

新潟県立巻高等学校 1年 飯塚 愛音 さん



元日の夕方頃、テレビ画面に映し出されたのは信じられない光景でした。青空の下、道路は波のようにうねり、寒さに耐えるように避難所には毛布にくるまった人々の姿。石川県能登地方で震度七の地震が発生したというニュースは私の心を一瞬で凍らせました。

その後私が知ったのは、被災地での救援や復旧活動の多くが、私たちが日々支払っている税金によって支えられていた、ということでした。

調べてみると、今回の能登半島地震では石川、富山、新潟の三県で約2.6兆円もの被害が出ていました。政府はまず緊急的に4億円の予備費を投入し、避難所の食料や毛布、仮設住宅の整備を行いました。ニュースの映像を見た避難所は、体育館いっぱい人が並んで寝泊まりしていました。食事はおにぎりや温かい味噌汁が中心で配膳するボランティアの人たちの声が絶えず響いていました。

私は画面越しにその様子を見ながら「ここにいる人たちの毛布や食べ物、ストーブの燃料、全部にお金がかかっているんだ」と気づきました。そして、そのお金は自分の家の近所のスーパーで買い物をしたときに払った消費税や、働く人たちが納めた所得税などから生まれている。そう思った瞬間、税金がとても身近なものに感じられました。

私はこれまで、税金と言えば道路工事や学校の教科書くらいしか思いつきませんでした。しかし、災害が起きたときには、命や暮らしを守るためにすぐに使えるお金として、税が大きな力を発揮するのです。もし税金がなければ避難所に毛布が届くのが遅れたり、壊れた道路が長い間そのままになったりするかもしれません。それは被災した人々の不安をさらに大きくするでしょう。

災害はいつ、どこで起こるかわかりません。今回の地震は元旦という特別な日に起き、日本中が心を痛めました。しかし、その裏で、私たちが日々納めている税金が、見えない力となって多くの人を支えていたことを知りました。

これからは、税金を「取られるお金」ではなく、「未来を守るお金」として考えたいです。そして災害が起きた時に誰かを助ける力になれる納税者になりたいです。税は私たち一人ひとりの思いが集まってできる、社会の命綱なのだと思っています。

